

——・学校で学ぶ ・家庭で生きる ・地域で創る これが上鷺宮 ——



上鷺宮

「自然といのちを守る学校」

<http://nk-kamisagi-e.a.la9.jp/>

開校40年
No.448
平成30年度

学校だより 1月号

中野区立上鷺宮小学校
校長 堀 聡明
TEL 3926-6381

節目で伸びる人

校長 堀 聡明

明けましておめでとうございます。

平成31年の幕が開きました。学校は、年度単位で教育課程を考えるので、3月までがひとつの区切りとなりますが、子どもたちにとっては次のステージへの心構えをしっかりとつくる時期です。12月までの自分、今日からの自分、そして、4月からの自分、それぞれの姿を明確に意識することができますでしょうか。成長するということは、そういうことができるということです。「昨日の君の姿を覚えているか？今日の君がどうなっているか分かるか？明日の君はどうすべきなのだ？毎日、それを考えていけば、自分の姿を見失うことはありません。」担任をしている頃によく子どもたちにそんなことを話していました。私の経験から、自分を確かに見つめることができる子は、日々成長していることが手応えとして実感できます。学習活動も然り、行動態様ももちろん、学習集団のリーダーとしてだれもが認める存在になります。一目置かれるという表現が合うと思います。子ども集団とはいえ、そういう雰囲気をもっている子は頼もしいものです。単にしっかり者というだけでなく、柔軟に人や出来事に対応することができる、失敗もするけれど自己修正が早い、やはり、

自分が見えているのですね。

ところで、本日の講話で、「竹の節目」の話をしました。竹はとても成長が早い植物です。節目ごとに伸びていきます。では、この節目は何のためにあるのか、それは、節目があれば「しなる」ことができるからです。ただ、伸びていくだけでは力が加わると折れてしまうのですね。人であればねばり強い、心が柔軟であり自分で立ち直る力をもっている、ということです。先ほどまで申し上げた、自分を確かに見つめられる子は、こういう節目をもっているのでしょう。だから、しなやかに学校生活を送ることができるのでしょう。

年の初めもそうですが、そういうことを考える時間を過ごしてほしいと強く願っています。私も毎年、節目の年と思っています。先輩の方々は、重厚でありながら穏健、しかも情熱的、自分もかくありたいと思っていましたが、私にはこの年になってもまだ節目が足りないようです。気恥ずかしさと悔悟の念で一杯です。

さあ、上鷺宮小の子どもたち、しっかりした節目をもちましょう！！

12月にお願いしました学校教育に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。現在集計中です。結果は学校便りでお知らせし、これからの上鷺宮小学校の教育活動に活かしてまいります。

1月の生活目標 **寒さに負けない体をつくろう**